

今日のトピック ECBの金融政策（2016年10月） 現状維持：12月追加緩和を予想

ポイント1 現状維持を決定

政策金利、量的緩和を据え置き

- 欧州中央銀行（ECB）は20日の理事会で、政策金利、中銀預金金利（金融機関がECBに余剰資金を預け入れた際に適用する金利）を、それぞれ0.00%、▲0.40%に据え置き、量的緩和の規模（月800億ユーロの資産購入額）も維持することを決定しました。金融政策の現状維持は、市場の予想通りでした。

ポイント2 12月に政策見直し示唆

今回は資産買入れ延長検討せず

- ドラギ総裁は記者会見で、資産買入れの期間延長について議論しなかったことを明らかにしました。また、ECBが購入する債券の不足に直面した場合のオプションについて議論した一方、テーパリング（買取額の縮小）については議論しなかったとしました。
- 次回12月8日の理事会では2019年までの経済見通しが示され、金融政策のあり方について再協議される見通しです。ドラギ総裁は「資産買取が突然終わる可能性は低い」との意見を述べ、期間延長等の追加緩和に含みを持たせました。

政策金利、ドイツ国債利回り、ユーロ円



▲ 1 (注) データは2014年1月1日～2016年10月20日。政策金利はMain Refinancing Operations 金利。預金金利はDeposit Facility 金利(翌日物)。(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ECB資産残高、消費者物価上昇率



▲ 1 (注) ECB資産残高は、2010年12月31日～2017年3月31日（週次、2016年10月1日以降は、月800億ユーロの資産購入を前提に計算）。消費者物価上昇率は、2010年12月～2016年9月（月次）。(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 12月の追加金融緩和が見込まれる

- 9月のユーロ圏の消費者物価は、前年同月比 +0.4%と、ECBの目標である+2.0%近辺を大きく下回っています。ECBの経済予測（9月時点）では、17年と18年のインフレ率の見通しを+1.2%、+1.6%としています。景気が力強さを欠くなかで、物価は上がりにくい状況です。
- ECBは12月の理事会で追加緩和を行うことが見込まれます。追加緩和策としては、①17年3月までの実施が公約されている量的金融緩和の終了時期延長（+6カ月）、② ECBの国債買取り条件の緩和（より期間の長い国債、中銀預金金利以下の利回りの国債購入）等が考えられます。

ここもチェック! 2016年10月13日 大幅に改善した「ZEW景況感指数」(欧州)
2016年 9月28日 最近の指標から見る欧州経済 (2016年9月)

■ 当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。